

# 榎垣外・東町田中遺跡発掘調査報告書 (概報)

平成15年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

# 序

このたび、「平成15年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書（概報）」を刊行することになりました。

岡谷市には縄文時代をはじめ、弥生、古墳、奈良、平安時代などにわたり数多くの遺跡が存在し、200ヶ所近くの遺跡が知られています。こうした歴史的に恵まれた環境の中、開発行為に伴う埋蔵文化財の調査は、毎年多くの調査件数になります。

貴重な文化財を調査・記録し、公開することによって、原始・古代の岡谷の人々の生活、文化をより詳しく知ることができ、現代を生きる私たちにも大きな驚きを与えてくれます。

さて、本年度の調査件数は20件近くに上り、多くの成果を得ることができました。埋蔵文化財の保護は土地所有者、事業者等の皆様のご理解とご協力により行われています。これらの発掘調査で得られた成果を公開していくことで、より大勢の方々に文化財の大切さを知って頂けることと思います。今後、この報告書が多くの皆様に活用されることを願っております。

最後になりましたが、今年度の調査にあたり、ご理解とご協力をいただきました土地所有者と事業者の皆様に感謝申し上げます。また、発掘調査に携わっていただいた皆さんには、炎暑、厳寒の中をご苦労いただきましたことにお礼を申し上げます。

平成16年3月

岡谷市教育委員会

教育長 北澤 和男

# 例 言

1. 本報告書は、平成15年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡試掘・確認発掘調査の報告書（概報）である。
2. 事業は、国の平成15年度国宝重要文化財等保存整備費補助金及び、県の平成15年度文化財保護事業補助金を受けて岡谷市教育委員会が実施した。
3. 調査は、国および県から補助金交付を受けた岡谷市教育委員会が、平成15年4月1日から平成16年3月19日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月に行ったが十分な整理が終了していないため概要の掲載にとどめてある。
4. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は岡谷市教育委員会が保管している。
5. 本報告書中の原稿執筆は榎垣外遺跡・鎮守東地籍、東町田中遺跡、天王垣外遺跡、榎垣外遺跡・下片間町地籍を山田武文が行った。出土品整理は林順子が行い、全体の編集・作図は事務局が行った。

# 目 次

序

例 言

目 次

1. 平成15年度試掘・確認発掘調査の概要	1
2. 榎垣外遺跡・鎮守東地籍	3
3. 東町田中遺跡	7
4. 試掘・確認調査	8
5. 出土品整理	10

# 1. 平成15年度試掘・確認発掘調査の概要

本年度、岡谷市内の周知の遺跡において、農地転用、公共事業などの開発行為が計画・実施され、岡谷市教育委員会が対応した件数は17件に上り、発掘調査を実施したのは2件2遺跡である。以下これらについて概要を記す。

本年度の調査は長地地区と川岸地区が多く、年間を通して開発は若干減少した。開発の目的は個人住宅が多かった。

榎垣外遺跡は、奈良・平安時代に官衙を中心に栄えた集落であり、これまでに長大な掘立柱建物跡が発見され、刀子、円面硯、墨書土器、丸軋など官衙と関連が深い遺物が出土している。

今年度調査した鎮守東地籍は、以前の調査において住居跡などの遺構が多く発見されている地点に近く、今回の調査でも奈良・平安時代の住居跡が5棟発見された。改めて遺構密度の高い遺跡であるということが確認された。

東町田中遺跡は、榎垣外遺跡の南東に隣接している遺跡である。これまでの調査では弥生時代の遺構が発見されていたが、今回の調査では平安時代の住居跡が1棟発見され、榎垣外遺跡を含めた平安時代の集落の広がりを知ることができた。

第1表 平成15年度試掘・確認発掘調査一覧表

調査期間	遺跡名	所在地	調査の原因	主な遺構	遺構・遺物の時代
1 4.3～5.7	榎垣外(鎮守東)	長地源一丁目3003-1	駐車場敷地	奈・平住5 小竪穴15	奈良～平安
2 4.21	榎垣外(鯉川)	長地鎮一丁目3628-1	個人住宅建設		平安
3 5.19	榎垣外(スクモ塚)	長地3601-4外	個人住宅建設		縄文・弥生・平安
4 5.23～5.26	峰の畑城居館跡	川岸東四丁目7891-ロ外	個人住宅建設		奈良～平安・中世
5 5.26	市営球場南	山下町二丁目2882-1	個人住宅建設		縄文
6 5.28	榎垣外(榎海戸)	長地4006-1	個人住宅建設		奈良～平安
7 5.30～6.6	東町田中	長地柴宮三丁目1524-1	個人住宅建設	平住1	平安
8 7.15～7.17	天王垣外	中央町一丁目5470外	中央町再開発事業		縄文・弥生・平安
9 7.28、29	間下丸山	山下町一丁目8-28	擁壁工事	縄住1 小竪穴1	縄文
10 7.30～8.1	榎垣外(八幡社朱引外)	長地柴宮一丁目3470-27	個人住宅建設		弥生
11 8.11	追鶴沢	川岸東追鶴沢5957-1	無線基地局設置		
12 10.7、8	西除入	川岸上四丁目1250-1外	グループホーム建設		
13 10.14	梨久保	長地6385	木の根抜根		
14 10.15～10.17	天王垣外	本町三丁目4936-1外	分布調査		縄文
15 11.27、28	荒神塚古墳	川岸上一丁目-1	県道拡幅		縄文・奈良・近世
16 12.15～2.19	梨久保	長地4456-7	墓地敷地	縄住1 小竪穴2	縄文
17 1.15～2.4	榎垣外(下片間町)	長地片間町二丁目2367-2	駐車場敷地	奈・平住2 小竪穴1	縄文・奈良～平安



第1図 試掘・確認発掘調査地点（番号は第1表の一覧表に同じ）

## 2. 榎垣外遺跡・鎮守東地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地源一丁目3003-1  
発掘調査の期間 平成15年4月3日～5月7日  
調査の原因 駐車場敷地  
調査面積 242.0㎡  
発見された遺構 奈良・平安時代住居跡5棟  
小竪穴15基

発見された遺物 土師器坏1 土師器甕9  
須恵器坏8 墨書土師器坏1  
墨書須恵器坏1  
印刻須恵器坏2  
土器片・石器類ほか2箱

榎垣外遺跡は、横河川扇状地の上に広がる遺跡で、長地地区の中村・中屋・東掘の平坦地の大部分がその範囲にある。ここでは、縄文時代から平安時代に至る遺構・遺物がみられ、特に長地保育園建設時に発見された掘立柱建物跡は、奈良・平安時代の官衙跡と推定されている。また、スクモ塚・コウモリ塚といった古墳が遺跡内や近距離にあり、牧との関連も考えられる遺跡である。官衙と古道を中心とした該期の大集落跡である。

今回の調査地は、長地小学校の北西に隣接する畑地で、長地保育園からは南西約400mに位置する。昭和59年に、北側約50mの地点の調査が行われ、奈良・平安時代の住居跡が数棟発掘されている。

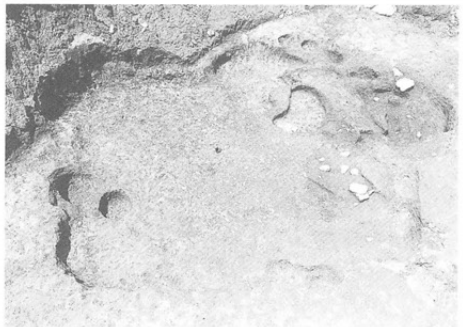
表土はぎの段階で、深耕が行われていることが確認できたため、耕作土をすべて排除して調査を開始した。当地は長芋・牛蒡の産地であり、そのため深耕がなされたものであろう。耕作土下にわずかに黒色土が残り、黒色土を掘り下げて漸移層に移ったところで住居跡を検出している。この間の遺物量は多くないが、土師器や須恵器の出土がみられた。また西部分に、北西から南東に走る幅2mほどの、溝状の黒色土の落ち込みが確認された。部分的にサブトレンチを入れて探ったところ、黒色土の下に砂層があり、この層中に多量の須恵器が出土した。この砂層は川床と考えられ、多量の遺物が存在することから全面を掘り下げ、川床である砂層も掘り下げた。前述のように、遺物は大半が須恵器であり、出土遺物の接合がまれであることから、壊れたものなどを廃棄したものと思われる。当時はこのような小



第2図 42号住居跡カマド



第3図 93号住居跡



第4図 94号住居跡

川が幾筋か流れていたのではあろうか。

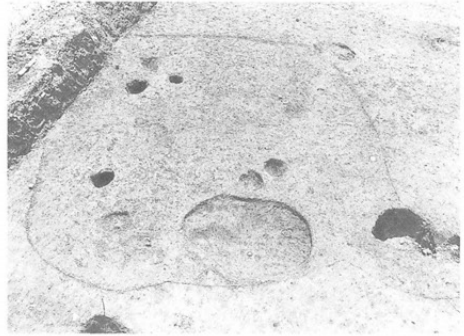
住居跡も漸移層において確認されている。今回は、カマドのみの検出も含めて5棟の住居跡が確認されたが、それぞれにまだ明確にできない点も多い。その中で、94号住居跡と96号住居跡について以下に記述していく。

94号住居跡：調査区のほぼ中央に検出された住居跡である。漸移層で遺構検出作業をしている時に、暗褐色土の落ち込みがみられ確認された。覆土は暗褐色土で、厚さ15～30cm、覆土中の遺物は多くなく、カマド周辺に甕の破片が集中している。

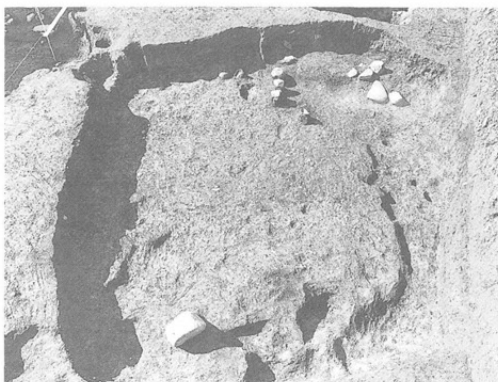
竪穴の大きさは約3.6m×3.6mの方形で、主軸は北東―南西方向にある。北東壁にカマドをもつが、ほとんど崩れているため、炊き口あたりに2～3枚の平石がみられるだけである。天井の崩れか、また袖石の崩れであろうか。火床には焼土とともに、多くの炭化物がみられる。床は堅くタタキしめられているようであったが、壁際では確認されず、カマド周辺でもみられない。柱穴はP1～P4を検出している。ほかに柱穴と思われるピットがみられないため、4本柱と考えられる。壁は、北壁が攪乱及び小竪穴によって不明な部分もあるが、15～30cmほどの高さを測る。壁際には5cmほどの深さの周溝をもつ。

出土遺物は前述のようにほとんどなく、カマド周辺から出土した土師器の甕がみられる程度である。この甕は、縦方向に施されたハケ目をもつ長胴の甕である。ほかには小破片の須恵器および内黒の坏がみられる。これだけでは時期決定は明確にできないが、この住居跡を埋めて造られた93号住居跡の出土遺物を考慮すると奈良末～平安前期と考えられる。

96号住居跡：本址も、漸移層において遺構検出をしている時に、暗褐色土の落ち込みがみられ、



第5図 95号住居跡



第6図 96号住居跡



第7図 96号住居跡カマド

住居跡と確認された。覆土は暗褐色土・黒褐色土で、暗褐色土・黒褐色土は北西方向から流入している。壁際には通称三角堆土の暗褐色土がみられ、覆土は30cmほどの厚さをもつ。これらの層中から完形の坏が数点出土しているが、カマド付近に集中している。

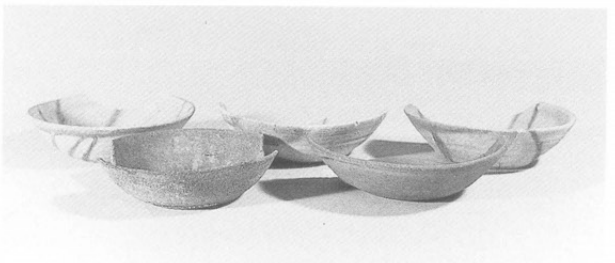


第8図 川跡検出状況

完掘したところ、大きさは3.9m×3.4mで、長軸はほぼ南北方向で主軸も同じである。床は、タタキのような、堅くしまってカリカリとした床面で、小穴で抜けているところを除くとほぼ全面にみられる。柱穴は明確なものは1本であるが、小穴の重複の中に、柱穴と考えられるものがあると考えられ、さらに検討を要する。壁は漸移層からローム層を掘り込み、ほぼ直に掘られており、部分的に北東角では袋状となっている。高さは30cmほどで、良好に残存する。カマドは北壁東寄りにあり、ほとんど崩れて袖石が若干残っている程度である。出土遺物は、須恵器坏4点・土師器内黒坏1点が完形で出土し、ほかに内黒坏片や須恵器坏、甕の破片がみられるが、甕の量は少ない。



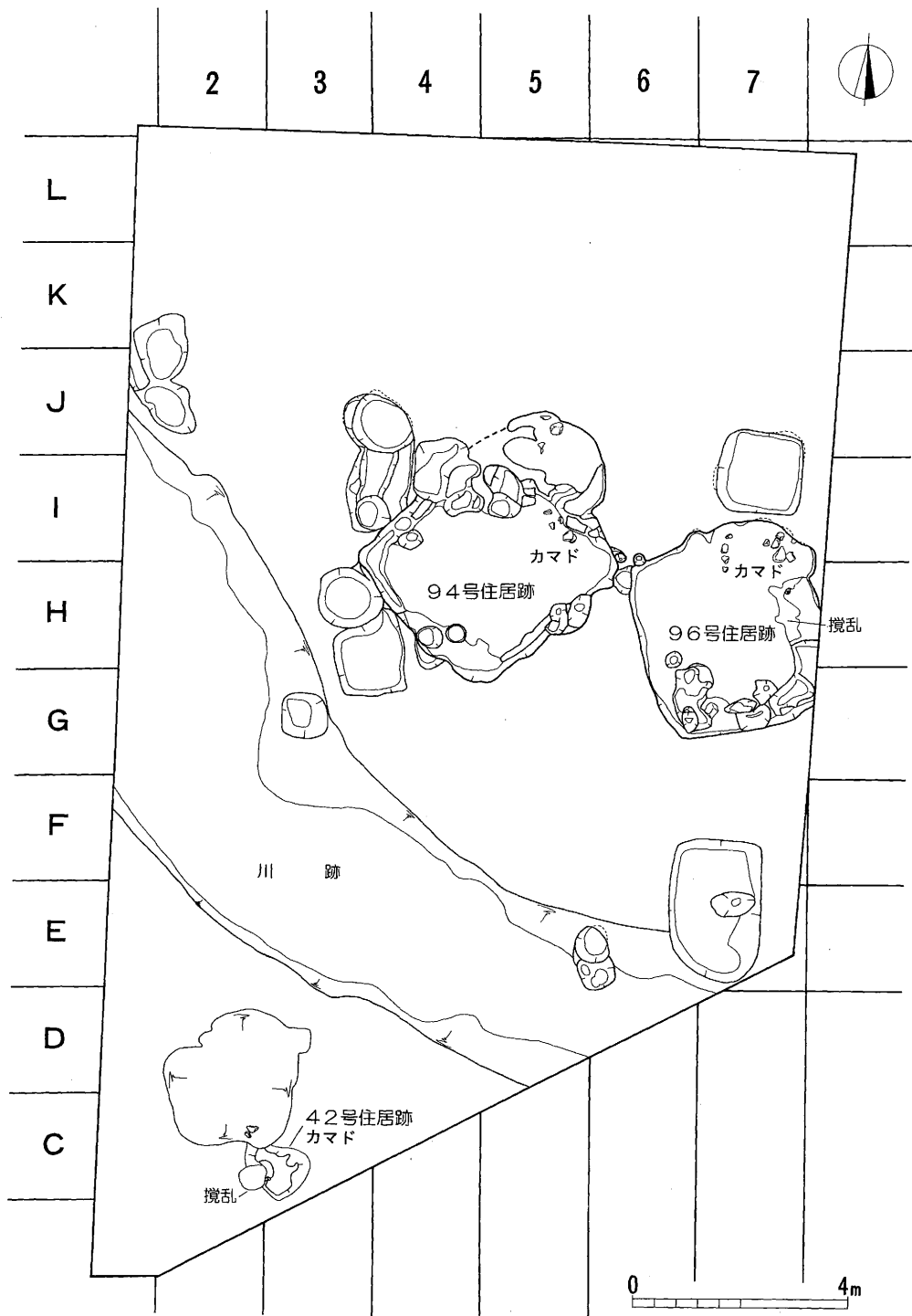
第9図 93・94号住居跡出土遺物



第10図 96号住居跡出土遺物

これらでみる限り、奈良末～平安前期の住居跡と考えられる。また、本址の上には95号住居跡が確認されているが、新旧は、96号住を埋めて95号住が造られている。95新、96古と考える。





第11図 橿垣外遺跡・鎮守東地籍全体図 (1 : 120)

### 3. 東町田中遺跡

発掘調査の場所 岡谷市長地柴宮三丁目1524-1

発掘調査の期間 平成15年5月30日～6月6日

調査の原因 個人住宅建設

調査面積 28.0㎡

発見された遺構 平安時代住居跡1棟

発見された遺物 土師器甕1 土器片・石片1箱

東町田中遺跡は横河川扇状地の東の縁辺にあたり、すぐ東には十四瀬川が南北に流れており、北西に隣接して榎垣外遺跡がある。今回の調査は遺跡の南西部分にあたり、いままで調査が行われていなかった部分である。いままでの調査では、堅穴状遺構は検出されていたが、住居跡の検出は今回が初めてであり、遺跡の概要を把握するのに良好な資料となった。

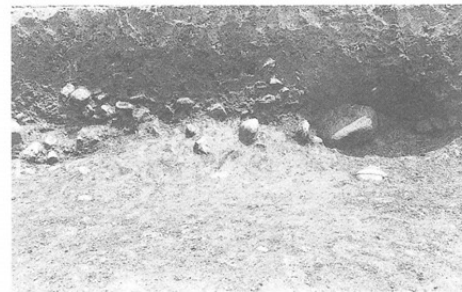
旧地目は水田で、耕作土・酸化鉄沈殿層（敷）の下が黒色土となり、掘り下げたところ、下の褐色土層に黒色土の方形の落ち込みを確認して、1号住居跡とした。

褐色土層まで地表下80cmほどで、遺物は覆土中に多く出土し、上層の黒色土からほとんど出土しない。住居跡覆土の黒色土には、さまざまな大きさの礫が混入している。覆土を掘り下げる過程で、住居跡の東壁にカマド跡を検出した。カマドはかなり崩れて、わずかに袖の芯にしたと思われる礫が残っていた。カマドの右側、住居跡の南東部に遺物の集みが見られたが、破片が多く完形品はなかった。

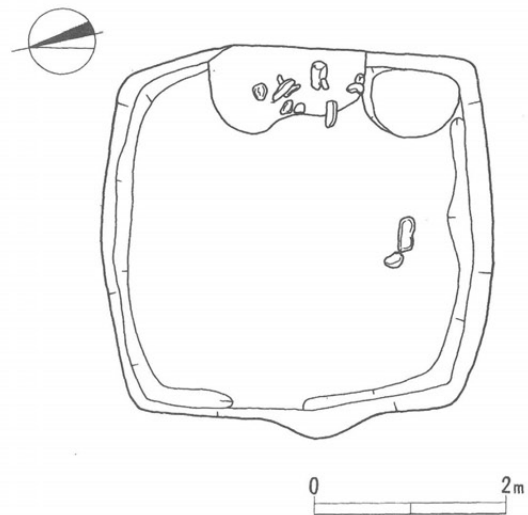
住居跡の検出は褐色土層であったが、住居跡はその下層の黄色砂礫層までを掘り込んで構築されている。床面もこの黄色砂礫層であるが、堅さやしまりはなく、所々に床の凹凸の修正をしたものであろうか、褐色土を用いて平らにしている。同時に柱穴の検出を試みたが、周溝はあったものの、柱穴は検出されなかった。東西4.0m×南北4.1mの方形の住居跡で、壁高は最大で35cmを測る。出土遺物から本址は、平安時代前期のものと考えられる。



第12図 1号住居跡



第13図 1号住居跡カマド



第14図 1号住居跡平面図 (1:80)

## 4. 試掘・確認調査

### (1) 天王垣外遺跡

発掘調査の場所 岡谷市中央町一丁目5470外

発掘調査の期間 平成15年7月15日～7月17日

調査の原因 中央町再開発事業

調査面積 63.0㎡

発見された遺物 弥生時代壺形土器 1

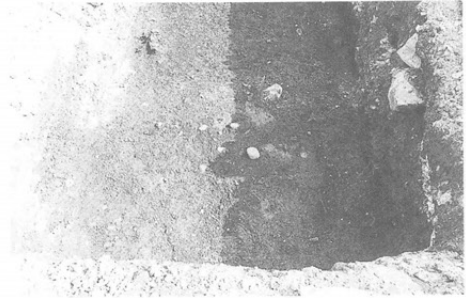
土器片・石器類ほか 1箱

天王垣外遺跡は、大川・塚間川の西に南北に延びる段丘にあり、南の先端部には海戸遺跡・岡谷丸山遺跡が存在する。明治40年に発見された壺に入った玉類（385ヶ）について「諏訪史第一巻」に載っているなど、古くから知られた遺跡である。弥生時代には、ここに強権をもった大王が存在していたことがうかがえる。

天王垣外遺跡は付近のほかの遺跡と同様に、古くから居住域であり、なかなか調査のできない地区であるが、今回、遺跡西側部分にあたる敷地内の調査を行う機会が得られた。調査区内に6ヶ所のトレンチを設定し、掘り下げを行った。製糸工場などとして長く使われてきたため、近代のさまざまな工事や建て替えなどで攪乱が下層まで及んでおり、残存層は薄く少ない状態であった。そのわずかな残存部から弥生時代中期の多量の土器片と、後期の半完形の壺が一個体出土している。特にこの壺は敷地西端に出土していることから現状の遺跡範囲を西側に広げる結果となった。

海戸・岡谷丸山・天王垣外遺跡と同じ段丘に広がりをもつ弥生時代中期の大集落が、その姿を断片的に見せている。岡谷市内における弥生時代の遺跡は、最も古いと考えられる庄の畑遺跡から、

中期の海戸・岡谷丸山・天王垣外・横道遺跡といった天竜川北部分、そこから、天竜川南岸の橋原遺跡の後期大集落へと変遷をしている。同じ集団が時代とともに移動をしていったのかどうか明確ではないが、天竜川周辺に大きな集落が残されている。その中で、玉類をもった天王垣外遺跡は、どんな位置を占めていたのか、解決せねばならない問題の一つである。



第15図 2トレンチ土器出土状態



第16図 6トレンチ土器出土状態



第17図 弥生時代壺形土器

## (2) 榎垣外遺跡・下片間町地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地片間町二丁目2367-2

発掘調査の期間 平成16年1月15日～2月4日

調査の原因 駐車場敷地

調査面積 25.0㎡

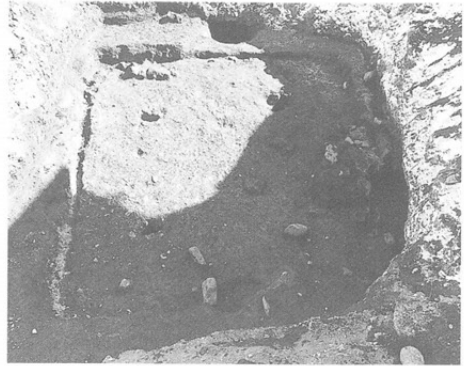
発見された遺構 奈良・平安時代住居跡2棟  
小竪穴1基

発見された遺物 土師器坏4 土師器甕2  
須恵器坏2 須恵器甕2  
灰釉陶器碗1

土器片・石器類ほか1箱

榎垣外遺跡全体の概要については、鎮守東において記述してあるので、ここでは省略する。

下片間町地籍は榎垣外遺跡の南西部分にあたり、横河川の自然堤防のすぐ東に広がる。耕作土下には黒色土があり掘り下げていくと、漸移層の中に黒色土の落ち込みを検出し、75号住居跡とした。長軸は南北に対してほぼ45度西に傾き、北西—南東5.0m×北東—南西4.0mの方形の住居であった。覆土は2層に分かれ、ローム混入の黒色土が上層にあり、壁際に三角堆土の黒色土がある。覆土を掘り下げていくと、住居跡中央南西部分にカマドが検出された。しかし、南西カマドの類例が当地にないため、この住居跡のものか疑問であった。三角堆土の黒色土を掘り下げたところ、北西壁中央にカマドを検出した。崩れてはいるが、袖石が存在し、それをくるむ粘土の残存もみられた。これにより本址には二つのカマドが存在することとなったが、出土する遺物に時代差が見られることから、別の住居跡が想定された。75号住居跡に伴うカマドは北西壁のもので、南西のものは76号住居跡として、別の住居跡とした。75号住居跡は奈良時代の、76号住居跡は平安時代後半の住居跡と考えられる。



第18図 75・76号住居跡



第19図 75号住居跡カマド



第20図 76号住居跡カマド



第21図 75・76号住居跡出土遺物

## 5. 出土品整理

平成14年度に調査した上向A遺跡、海戸遺跡において、今年度は出土品整理を行った。

昨年度に調査された上向A遺跡は、約500㎡の調査面積に縄文時代中期の住居跡が18棟発見された。遺物量も多く、長さが20cmを超える大型の磨製石斧や動物形の土器の装飾品も出土している。海戸遺跡は、縄文・弥生・奈良・平安時代の各時代の住居跡が発見され、遺物も各時代にわたって出土している。

### (1) 上向A遺跡



第22図 112P出土土器  
高さ/30.4cm



第23図 200P出土土器  
高さ/32.0cm [35.5cm]



第24図 227P出土土器  
高さ/25.2cm [27.4cm]



第25図 48号住居跡出土土器  
高さ/24.5cm



第26図 39号住居跡炉体土器  
残存高/16.7cm



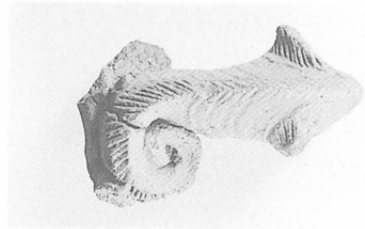
第27図 ミニチュア土器  
高さ/2.9cm



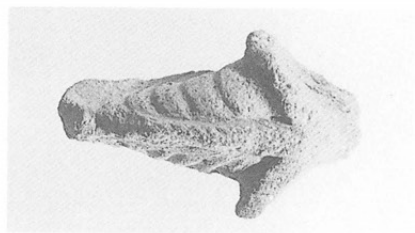
第28図 土製円盤  
径/3.7cm

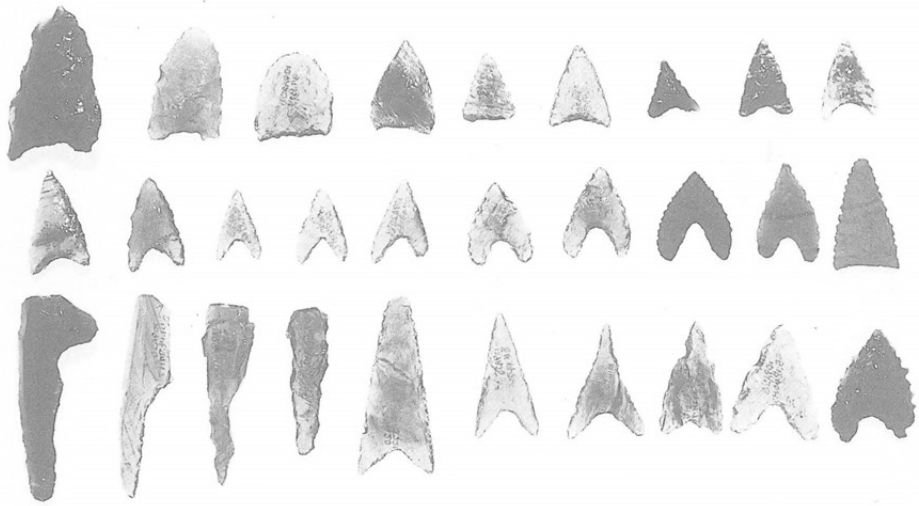


第29図 動物型の土器装飾品  
長さ/9.2cm



第30図 動物型の土器装飾品  
長さ/6.6cm





第31図 石鋸・石錐



第32図 石匙



第33図 石錘

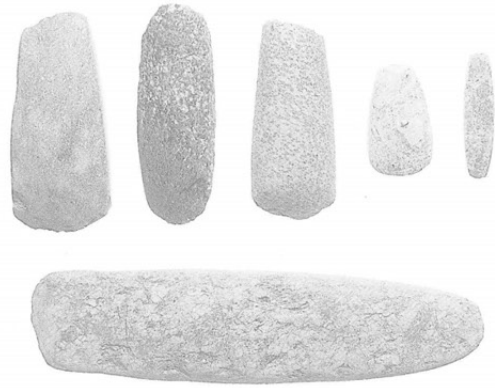


第34図 凹石





第35図 打製石斧



第36図 磨製石斧

(2) 海戸遺跡



第37図 93号住居跡出土土器  
高さ/14.3cm [16.4cm]



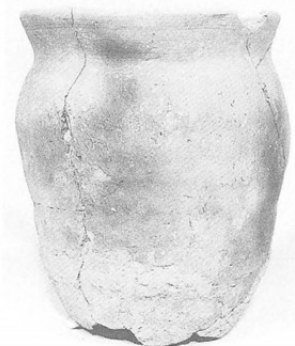
第38図 93号住居跡出土土器  
高さ/18.2cm [19.1cm]



第39図 96号住居跡炉体土器  
(弥生時代甕形土器)  
残存高/17.8cm



第40図 85号住居跡出土  
土師器甕  
高さ/23.0cm



第41図 85号住居跡出土  
土師器甕  
残存高/18.4cm



# 報告書抄録

ふりがな	えのきがいと・ひがしまちたなか							
書名	榎垣外・東町田中遺跡発掘調査報告書（概報）							
副書名	平成15年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	長野県岡谷市教育委員会							
編集機関	長野県岡谷市教育委員会							
所在地	〒394-8510 長野県岡谷市幸町8-1 TEL0266-23-4811							
発行年月日	西暦 2004年3月19日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
えのき がい と 榎垣外	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 おさち 長地	20204	134	36度 4分 34秒	138度 4分 10秒	20040403 ～ 20040507	242.0	駐車場敷地
ひがしまち た なか 東町田中	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 おさち 長地	20204	137	36度 4分 19秒	138度 4分 21秒	20040530 ～ 20040606	28.0	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
榎垣外	集落	奈良・平安		奈良・平安時代 住居跡 5 小竪穴 15		土師器坏 1 土師器甕 9 須恵器坏 8 墨書 2 印刻 2		
東町田中	集落	平安		平安時代住居跡 1		土師器甕 1		

